

『やぶっ子夢プラン』 氷ノ山登山に挑戦

養父市教育委員会では、今年度から『やぶっ子夢プラン』と銘打ち、市内の小学4年生と中学1年生が氷ノ山登山を行う「山の学校」を実施しています。

この事業は、養父市が誇る名峰「氷ノ山」への登山体験や、自然・生き物とのふれあい体験を通して、たくましい身体や豊かな感性を育むとともに、山頂に登りきったときに得られる満足感や達成感を共に味わうことで仲間作りを進めていくことを目的として実施しているものです。



氷ノ山山頂まで、あと一步!



県下最高峰「氷ノ山」(1510 m)

切りに、こ

れまで養父中学校、八鹿青溪中学校、大屋中学校、広谷小学校、高柳小学校、関宮小学校(6年生、建屋小学校が、登山を終えています。これから秋にかけて残りの学校も順次登る予定になっています。

また、『やぶっ子夢プラン』では、もうひとつの事業として、地域の伝統や芸術にふれることで、それらを尊重する態度や郷土を愛する心を育ぶことを目的として「ふるさと教室」を実施しています。これは、児童、生徒が校区に昔からある身近な文化や芸術などを学習することを通して、主体的に継承していく活動につながるよう取り組むものです。

▼お問い合わせ/市教育委員会 学校教育課 (0664-1627)

7月は「青少年の非行・被害防止全国強調月間」

青少年をめぐることは、刑法犯少年の検挙人員が8年連続で減少しているものの、少年による凶悪事件は後を絶ちません。また、児童虐待事件や児童ポルノ事件等による被害児童数が増加傾向にあるなど、少年の非行防止、保護の両面において予断を許さない状況となっています。

次代を担う青少年の育成は、国民全体に課せられた責務であり、国、地方公共団体、関係団体等が、それぞれの役割と責任を果たし、相互に協力しながら、非行防止等のために取り組みを進めることが必要です。

このため、7月を「青少年の非行・被害防止全国強調月間」とし、青少年の非行防止等について国民の理解を深めるため、関係機関・団体と地域住民等とが相互に協力・連携して、各種取り組みが実施されます。兵庫県では「青少年を守り育てる県民スクラム運動」が展開されますので、ご協力をお願いします。

まちの文化財 93

中瀬金山と佐渡金山

中瀬金山は、天正元年(1573)、大日寺の下を流れる八木川で砂金が発見され、鉱山が始まりました。

慶長3年(1598)、豊臣秀吉が管理する金山の運上金をかいた記録があります。佐渡は799両で全国第2位、中瀬を中心とする但馬は127両で全国第6位、越後が第1位となっています。

その2年後の慶長5年、関ヶ原の合戦で徳川家康が勝利し、但馬の鉱山は徳川家康の領地となりました。

徳川家康は、但馬国生野奉行に間宮新左衛門を任命しました。間宮は、中瀬金山の開発にも力を入れ、橋本嘉右衛門など2名の下奉行を中瀬に派遣します。そして役屋敷(陣屋)を建設し、高柳から八木・関宮・出合などの4千石の領地を金山開発の費用として下奉行に預けました。

この時の陣屋の跡が、中瀬集落北側にある台地で、金昌寺の東側にある8坪四方ほどの平坦な畑です。陣屋の規模は、桁行10間(約20m)、梁間4間(約8m)です。記録によると、慶長14年(1609)、佐渡奉行が金山開発に不慣れであることから、生野奉行は、中瀬金山の橋本をはじめ、その配下の鉱山技師である下草孫右衛門、白岩九右衛門、井相九助の3人を1年間、佐渡に派遣し、金山開発を支援しました。

また元和3年(1617)には、佐渡金山の味方但馬が、中瀬の金山開発の指導にやってきました。天下を治める徳川家康は、中瀬金山と佐渡金山の開発に力を入れ、両者の技術交流によって金山開発を進めました。近畿地方でも最大の金山が、中瀬金山なのです。(教育委員会社会教育課)



正面に中瀬金山が見える陣屋跡